

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470500372
法人名	有限会社 村伝
事業所名	グループホーム 村伝
所在地 (電話番号)	宮城県気仙沼市八日町二丁目3-5 (電 話) 0226-21-1344
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 9 月 29 日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人 非常勤 0人 常勤換算	5.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	
	2 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	43,500 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	270 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9 月 11 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木島医院、大里胃腸科内科医院、櫻田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

気仙沼市の商店街の一角にグループホーム「村伝」はあり、昔旅館だった頃の名前をそのままホームの名称に使っている。訪問時ちょうど、ドライブに出かけるところであったが、職員は笑顔で、さりげなくゆったりと入居者をサポートし、入居者の表情も落ち着いていて明るさを感じられた。毎日買い物や散歩をする入居者を地域の方が見て「認知症になっても地域で安心して暮らせる」と感じてもらえるように、事業所での日々の介護サービスの更なる充実とともに、認知症への正しい理解を得るため、市と協力してパンフレットを作成し、気仙沼市をはじめ近隣の町の全戸に配布したり、講座を開くなどして、啓蒙、啓発に努めており、地域に密着したグループホームとして存在感を増している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市との協力体制の構築については、運営推進会議を通じて管理者が市より認知症コーディネーターとして委嘱され、「おらほの地域はあんべいいいよ」という市発行のパンフレット作成に参加したり、認知症ケアの啓発に関わる活動として講師依頼されるなど連携を取る機会が増えている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議の場で説明し、職員に書いてもらう部分を抜粋して渡し、職員全員に記入してもらい、管理者が取りまとめた。</p>
	<p>運営推進会議は、事業所側からは外部評価や行事の説明、入居者の状況、職員研修の受講状況についてなど報告をしている。地域メンバーからは地域行事の説明や招待についてなど、また、事業所の評判などを寄せてくれることもある。新しく参加した薬局経営の人から風邪の流行の情報を早めに得る事ができたり、地域包括支援センターのメンバーから市の認知症コーディネーターに推薦していただいた。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問されたご家族との会話の中やその表情から情報を得ることが多い。また、管理者は日ごろ入居者とともに過ごすことの多い職員からの情報も重視している。入居者のレベル低下に伴い、家族が先々不安に思っていることについては、事業所でもしっかり対策を考えていることを伝え、安心感を持ってもらうよう努めている。事業所に苦情相談窓口を設け、第三者委員を委嘱し、いつでも苦情、意見、相談を受け付ける体制がある。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の折に挨拶を交わしたり、毎日の買い物で地域の商店の顔なじみとなっていて、そのことが入居者への見守りにつながっている。地域の人からの見学の申し込みに応じたり、認知症対応の相談を受け対応している。また、認知症への理解を求め、地域への啓蒙、啓発にも積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である。新人職員のためにも分かりやすくするため見直しは行っている。地域性を加味したもになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの際に理念を唱和して職員間の共有を確認しあっている。日常の業務には常に理念が指針として活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭りや芋煮会に参加している。事業所の忘年会やカラオケ大会に近隣の方を招待することを計画している。また、近くの幼稚園の園児のために遊技の練習場所に居間を提供して入居者も楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全体会議で自己評価について説明し、職員に書いてもらう部分を抜粋して渡し、職員全員に記入してもらい管理者がまとめた。尚、前回外部評価の課題については、市の協力関係も強めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、固定メンバーだけでなく新メンバーにも参加してもらい、情報の収集に努め、サービスに活かしている。地域メンバーより認知症コーディネーター委嘱要請を受け、啓発活動や講演など活動している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と連携をとる機会が格段に増えている。認知症ケアに対する啓発活動や、キャラバンメイトの事業、パンフレットの作成など市と協力して行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年四回の季刊誌「村伝通信」を送るほか、「村伝だより」を月一回送付し、入居者の状況を家族に知らせている。三ヶ月に一度は出納簿を領収書を添えて送付したり、訪問した家族に手渡している。できれば金銭管理については月一度は報告していただきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族代表の意見を聞くほか、訪問した家族にも意見、要望を聞くようにしている。事業所に苦情、意見、相談窓口を設け、第三者委員を委嘱し、いつでも受け付ける体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動による入居者のダメージに配慮し、人事異動は極力少なくするため、職員の意見をよく聞くようにするなど、細心の注意を払っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員年平均4回ほど外部研修を受けている。新人職員の外部研修は業務内容をよく知ってからという考えから、三年目から設定している。研修内容は会議の場で発表され、全職員が共有し、新たな気づきは介護に取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会の相互評価事業研修や介護法人連絡協議会の研修に参加している。また、職員同志の集まりや個人的なレクリエーション等を通じて交流している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始については一人ひとりにそった対応をしている。家族と相談の上、通所に近い形を取ったり、「帰りたい」願望の方には職員が付きそったりしている。また、ニコニコしている方は随分気を遣っているのが分かる。慣れるまで平均すると三ヶ月くらいかかる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、戦争の話や格言を教えていただいたり、生活の知恵として、漬物の漬け方や栗のむき方など教えていただくことは多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員は日常の何気ない会話の中や表情から思いをくみ取ったり、バックグラウンドを探ったりして把握に努めている。また、他の職員の意見を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、職員会議の場で評価を行い、居室担当者の作成したアセスメントシートを基に管理者、居室担当者、看護師が参加して作成される。介護計画書は家族に渡され、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度見直しを行っている。見直しには「介護計画評価表」、「再アセスメント表」を独自に作り。現状に即した見直しをするため「管理者申し送りノート」を活用するなど工夫されている。見直された計画書は家族の同意を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族の付き添いが原則であるが、それが不可能なときは職員が行う。個人的な外出や買い物にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は二人の方が以前からのかかりつけ医の診療を受け、他の方はホームに入居してからそれぞれの専門医にかかっている。受診の際には確実に情報が伝わるように「医療機関申し送り書」を持参していただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の中に「看取り介護に関する指針」を明記し、契約時に同意を得ている。重度化が進み、入居者、家族がホームでの看取りを希望する場合には、協力医療機関の医師、当ホームの管理者、看護師、職員が「看取り介護の計画」を作成し、家族の同意を得る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者への呼びかけは名前であり、職員による入居者のプライバシーを損ねるような言葉掛けや態度は見られない。個人記録などは目隠しのついた戸棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間等は一人ひとり違うので、朝食を摂るのはそれぞれの時間になるが職員はせかしたりしないで入居者のペースで生活できるように支援しているが、新人職員が業務に不慣れなため、入居者との関係が円滑にいけないところがある。	○	新人職員の内部教育に取り組み、チームケアがスムーズに運ぶようにしていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の手伝いを一生懸命にする入居者がおり、せつせと食器などを配っていた。また、自作のテーブルクロスが掛かった食卓での食事は入居者と職員が談笑しながら非常に楽しそうであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる態勢である。入浴を拒む方への工夫として、一日目は明日入浴の約束をし二日目は足浴、三日目に本格入浴と段階を踏んでつないでゆき、無理強いない入浴に成功している。また、家族の支援を仰ぐこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることは積極的にしていただく方針である。日常的には配膳、洗濯物たたみ、調理の手伝いなどの他、季節の行事、畑仕事、針仕事などを楽しんでもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日外出している。食材の買い物には必ず利用者に同行してもらう。その他ドライブや家族との外出など個別に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路は車の往来が頻繁であるが、昼間は玄関の鍵は掛けていない。外出傾向のある方のパターンを把握しており、近所の方の見守りもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間避難については、数年前に近所で火事があり、体験した。その時、まず大声で近所の人への助けを呼ぶのが大事だと実感した。実際近隣の方の協力で無事避難できたという。夜間想定と通報訓練を含め年4回防災訓練をしている。避難路の確保点検、消火器の点検、備蓄もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が立てているが、市の栄養士による栄養チェックを受けている。水分摂取量、摂食状況は個別に記録しており、体重測定は毎月行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間はほどよい高さにカレンダーや時計が設置され、空気のよどみや臭気は感じられない。季節を感じさせる花も生けられており、入居者の作品などが飾られ、居心地よく整えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族や職員の協力でそれぞれの方が居心地よくしつらえられており、また、のれんの模様で入居者が自室を見分けられるように配慮されている。		